

令和7年度 第3回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	令和7年度 第3回安曇野市博物館協議会
2	日時	令和8年3月17日(金) 午後2時から3時30分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎3階 会議室 306
4	委員出席者	小野委員、金井委員、城戸委員、笹本委員、三原委員、宮澤委員、米山委員
6	事務局出席者	橋渡教育長、三澤文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館原館長、安曇野市美術館清澤館長、田淵行男記念館兼飯沼飛行士記念館中田館長、穂高陶芸会館藤松館長、高橋節郎記念美術館宮沢館長、貞享義民記念館寺島館長、臼井吉見文学館平沢館長、逸見博物館担当係長、土屋博物館担当主査、佐野文化振興担当係長、曾根原文化振興担当会計年度任用職員
7	公開・非公開の別	一部非公開
8	傍聴人	3人 (うち記者 1人)
9	会議概要作成年月日	令和8年3月26日

協 議 事 項 等

会議の概要

- 1 開 会 (文化課長)
- 2 報告・協議
 - 令和8年度各館事業計画(案)

会長

中山新市長になり、博物館や教育問題に関して、そのまま引き継いでいただける。1人でも多くの方が活用して初めて博物館らしくなってくる。その意味では皆様のご意見が非常に大事になる。事前に委員の皆さんに資料が送付されている。委員の皆さんから質問・ご意見等をいただきたい。

委員

本年度のそれぞれの館のコンセプトに応じた実行計画の内容が大変充実した内容であると認識している。高年齢の方の美術館、博物館等への利用の誘導について、一人では行きにくい、グループだったら行きたいという人がほとんどだと感じる。去年の5月にも具体的に文化課に提案している。保険の関係等で難しいとは思いますが、全員に対して、もっと博物館や美術館が宝の持ち腐れにならないような形で対応をお願いしたい。

事務局

確かに5月頃、ご提案いただいている。
バスの予算は何回分かはあるので、それを活用し、テストラン的な美術館巡り等を内部で検討してみたが、どのように声掛けをしていくのか、どの施設に行くのか、どこに集合するのかを具体的に考えていく中で、もう少し検討していく必要があり、時間がかかってしまっている。

委員

バスに限ったことではない。市内公民館を持ち回りで5,6名集め、タクシーも検討してはどうかと提案しているが。

事務局

引き続き検討させていただきたい。

委員

どの館も、あづみの学校ミュージアムへの参加協力を事業計画の中に書かれていて、大変ありがたいと思っている。

11月25日堀金中学校に参加したが、子供たちがわくわくして聞いている姿、各館長、担当が熱く語りかけている姿を見させていただき、こんな素晴らしい機会はないと思った。ぜひ今後も続けていただくようお願いしたい。

会長

学校ミュージアムに関して、日本でこれだけのことをやっているところはないだろうとずっと言い続けてきた。新市長も同じ意見であるため続ける。

委員

先ほど文化庁の話が出たが、美術館・博物館の価値を広げ、市民が支えていかないと感じている。冬のミュージアムギャラリートークリレーに参加したが、どういう意図で企画したのか等、詳しく説明があり、面白い企画展だったと感じた。

豊科郷土博物館について、少ない人数で様々な催しをやっていることに本当に尊敬した。今後にも期待している。

館で企画する講座の申込みに関して、電話ではなく電子申請サービスに移行していくことはできないかと思っている。

豊科郷土博物館

豊科郷土博物館の予約は基本電話であるが、人気のある博物館友の会の、子どものタカサガし部に関しては、往復はがきにし、館長が抽選する方法に変えたりと工夫はしている。今後の検討課題としたい。

会長

高齢者にとっては、なかなか難しい。携帯やパソコンだけが方策ではない。各館での検討も必要だ。

委員

豊科郷土博物館友の会は、9部会を良くまとめていると感じた。

今年は東日本大震災から15年であり、そこら辺も注目されると思っている。沢山の美術館、博物館があり、今年は豊科郷土博物館で戦後80年の企画をやった。私は絵本に関係する仕事に係わっているが、去年は戦争に関する多くの本が刊行された。しかし、8月から9月を境に急に静かになった。時期が終わっても、戦争・平和をテーマに扱うことは大事だと思う。また、美術館・博物館で、ひとつのテーマで連携したことはあるか。

会長

今まで年間テーマを連携したことはない。非常に大事な点だと思う。今後事務局でも考えていただきたい。

委員

陶芸会館の親子教室に参加させていただいたが、開催日が土曜日のみだと、サービス業に携わっている人は参加できない。施設や職員の問題はあると思うが、月に1回程度は日曜日にずらす等、皆が参加できる方法を考えていただきたい。

穂高陶芸会館

内部においても、そのような意見は出ている。検討を始めているところである。

副会長

「望月桂」は、安曇野モデルともう謳ってもいいんじゃないかといったような展開かと思う。美術館だけでなく、文書館でも企画展が予定されており、美術という枠にとどまらない「望月桂」を社会の中で位置付けようとする動きが企画されている。安曇野の、この地域の中でできることを考えるということが大変画期的だと思い大いに期待している。これは私の期待にとどまらず、おそらく美術の業界全体にとっても大きな期待の目で受け止めている。大学からもいろいろな形で貢献させていただきたいと思っているのでよろしくをお願いしたい。

美術館関係のことで申し上げると、安曇野市美術館という呼称が本当に馴染んできたことは大事だと思う。

役割の明確化は、できることできないことの見極めるのは大変だと思う。限られた職員の中で何をやっていくのかという線引きが今後の課題になると思う。

今年是全国美術館会議が長野県で開催されるというタイミングである。全国的に見て非常に重要な美術館と博物館の交差モデルを安曇野市は実現しているので、全国美術館にも知ってもらい、そういったことができるといいのではないかと考えている。何か機会があればご検討いただきたい。最後に、高橋節郎記念美術館のアーティスト・イン・レジデンスの歳出の件で予算枠がわからないためお聞きしたい。

高橋節郎記念美術館

漆は素材の関係もあり、当館では制作できない。その作家の都合のいいところで作って展示するという形になっている。宿泊場所や交通費は各々のところで決めていただくということで、各自10万円を用意している。その中で交通費・製作費用も賄っていただくというように考えている。

会長

美術館で今回やる望月桂展。本当に一生懸命やってくれている、市文化課の職員がいて後ろが成り立っている。それは忘れてはいけないだろうと思う。つまり博物館だけを見るのではなくて、博物館の後ろまで見て、きちんと応援できるような協議会でありたいと思っているので、任期が切れても応援をしていただきたい。

田淵行男記念館

委員の皆様にも、ぜひそれぞれの企画展を見ていただき、細かいご意見などいただくと、翌年の企画展に生かしていける。ぜひ館へ足を運んでいただければと思う。

委員

田淵館の企画展「サハリン」では、社会的なテーマを扱った展示をやっていて良かった。

豊科郷土博物館

一番困っているのは資料整理と民俗資料整理。展示は面白いが、資料整理はなかなか大変。整理をした旧堀金歴史民俗資料館はエアコンもなく、集めなくてはいけないものもあるが、判断もいるし時間もかかる。

会長

館長は、会計年度任用職員で週4日勤務。その中でこれだけの仕事をして、本当にボランティアでやってくれているのではないかとと思う。何とか少しでも応援していけるようにしたい。

委員

臼井吉見文学館と文書館について。

私自身、臼井吉見文学館の友の会の事務局をやっており、8年前に市の直営になって友の会はどうなるかと心配していたが、館長のもと、地域の方としっかり繋がり、市全体・全国を結びついて、親しみやすい基盤をつくっていただいた。

会長

館長は、これで文書館を辞められるが、全国大会までやっていただいた功績がある。その尽力で、今後も協力してもらえないかと期待している。

臼井吉見文学館

私が7、8年勤められたのは、自分が素人だったということ。文書館には県史料協議会のネットワークがある。ひとつひとつの館が孤立しないようにしている。

私が勤めていて思ったことは、公民館がいろいろなことをやってくれるということ。人材を繋げるのは大変なことだが、声を掛け合っていきたい。

行政は強くはない。市だけでやるのが難しいなら、近在で一緒になって進める。議員さんに協力してもらおうのが良いかと思う。

貞享義民記念館

貞享義民記念館は、職員3名で回しているが、三郷地域の方々が想いをもってしてくれる。

しかし高齢化もあり、次世代へと繋がっていかないと感じている。我々も貞享騒動だけじゃなく、こんな施設があることを知ってもらえるよう、いろいろな形で講座や、市民の方々の発表の場にしてもらえたらと思っている。

委員

ぜひジェンダーや平等のこと、多文化共生の講座を開くと、たくさんの方が来てくれるのではないかと思った。

副会長

博物館実習等でも大変お世話になっており、本当に地域の教育機関の一員として安曇野市の博物館並びに文化行政の皆さんに感謝するところである。そういった気持ちを改めて申し上げたい。安曇野市は、美術館と博物館が切り分けられていない有機的な繋がりをもつ。日本全体が縮小していくなかで、社会全体の単位が小さくなりつつある。そのしまい方が大事になってくる。15年30年後の日本を見据え見つめるために、安曇野は一步二歩先を歩んでいるのだ。それが文化行政における安曇野モデルだと皆さんのお話を通して、改めて確信しているところである。

会長

博物館は未来を作っていくための教科書にならないといけない。

博物館は古いことを知るのではなくて、未来を考えるための土台を作っていくべきである。

4 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。